

地域活性化—まちづくりと交通をめぐって—

首都大学東京 都市環境科学研究科

観光科学専修 秋山哲男

1. 見えないものに対する価値が低い

- ・情報、モビリティ、審美性、サービスなど

2. サービスは無料と思われている

- ・福祉サービス(介護、移動など)
- ・交通サービス(見えないＳＴサービスは先進国で最も遅れている)
- ・審美性(美に対する無関心と、まちづくりに対する協力の欠如)
- ・情報(人の意見など)

3. 新しい価値の創造と普及

(1) 交通

- ・コンパクト性(まとまり性)
- ・中心商店街の改善：
 - ・土地所有の形態がネック⇒都市は交換価値をもたらす事の弊害、
使用価値にとどめる⇒地域カンパニー設立し使用権の管理を行う
- ・コンパクト性は土地利用と交通の一体化が不可欠：都市エネルギーの節約効果が大きい
 - ・クリチバ：BRT(バス)沿道の高密度化
 - ・ポートランド：LRT(路面電車)の駅周辺の住宅の高層化
- ・地方のバス：赤字が当然と考える
 - ・モビリティのミニマム水準を決める(赤字の部分は行政が入札等で決める、また住民負担も考える)
 - ・バスドライバー、タクシードライバーの育成；部分的委託なども
- ・ＳＴサービス(スペシャルトランスポートサービス)
 - ・移動困難な人は人口の2～3%存在する
 - ・現在この50分の1から5分の1のカバー率である(調査データが無く推測)
 - ・業として作る必要がある⇒タクシーを増やす事だけでは対応できない

(2) 観光・景観

- ・サービスとホスピタリティ：サービスは規格化したもの、ホスピタリティは+アルファ
- ・真正性⇒まちづくりにおける価値の発見：保存と活用
- ・街並を・まちづくり

(3) 福祉サービス

- ・人材が十分でない

(4) 地域(特に地方)の人材：複合的な対応が可能な人材

- ・多様な事ができる人材教育が必要：観光・運輸・サービス・介護など